

## —水資源機構—

## コミュニティエフエムを活用した防災情報の提供について 浦山ダム・滝沢ダム



### 1. はじめに

埼玉県秩父市にある浦山ダムと滝沢ダムを管理する荒川ダム総合管理所においては、令和元年9月12日に国土交通省関東地方整備局二瀬ダム管理所とともに、ちちぶエフエム株式会社（以下「ちちぶFM」という）と「災害情報の放送に関する協定」を締結した。この協定では、ダムからの放流を行うとする場合などの防災情報をちちぶFMに提供して放送を要請し、通常の番組に優先して災害情報を無償で放送すること。また、災害時の対応に備えるため、平時より相互に協力し防災知識の普及促進活動にも協力することとなっている。本稿では、協定締結に至った経緯と台風第19号での対応について紹介する。



協定書締結式

### 2. 協定締結の背景

ちちぶFMは、コミュニティFMとして地域密着はもとより防災・災害放送では地域と緊密な連携を保つことを目指して設立されたものである。ちちぶFMの放送は、ラジオ以外で秩父市が主として高齢者世帯に無料で貸与している防災無線の受信機でも聴くことができ、雨戸を閉め切った室内で放送を視聴できるという点において、情報伝播に確実性があると言える。このため、平成30年12月に国土交通省でとりまとめられた「異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能に関する検討会」の提言で述べられている住民等の主体的な避難の促進のためにも、FMを利用したダム放流に関する防災情報等の周知に非常に役立つものと考えたものである。

### 3. 台風19号とエフエム放送

令和元年10月に日本に上陸した台風第19号では、浦山ダム及び滝沢ダムにおいて既往最大の流入量となり防災操作を行った。この時、放流通知のFAXはちちぶFMにも送付しており、通知が届く度に直ちに放送されることで注意が促された。なお、台風が上陸する前には職員がちちぶFMを訪問し、キャスターに対しダムからの放流方法と放流通知の見方について説明を行うとともに、職員が生放送に出演してダムからの放流の際の注意事項の説明を行った。

### 4. より正確で伝わりやすい情報提供のために

台風第19号の対応を踏まえ、「災害時におけるダムとコミュニティFM放送局の役割」と題した座談会を12月5日に行い、当時の緊迫した状況を放送局と共有したほか、異常洪水時防災操作（いわゆる「緊急放流」）におけるダムからの放流について説明した。さらに、将来の大規模災害の発生に備え、ちちぶFMなどを通じた積極的な情報の収集により命を守る行動をとってほしいことを伝えた。なお、座談会の様子はラジオ放送されるとともに、ちちぶFMが発行する雑誌にも掲載された。

最後に、荒川ダム総合管理所においては、引き続き「正しく・理解しやすく・判断しやすい」情報伝達を行うための検討を行っていくとともに、「逃げ遅れゼロ」とするために、ちちぶFMなど関係機関との連携を強化してまいりたい。



座談会の様子

(独立行政法人 水資源機構 荒川ダム総合管理所  
川崎 忠成)